

浜の活力再生プラン
(第二期)

1 地域水産業再生委員会 浜プラン ID 119013

組織名	小松島地区地域水産業再生委員会 (和田島地区)
代表者名	会長 三原 秀之

再生委員会の構成員	小松島市、小松島漁業協同組合、和田島漁業協同組合
オブザーバー	徳島県水産振興課

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	徳島県小松島市和田島町 対象漁業経営体数：40 (漁業者数：105 名) 機船船びき網漁業 経営体数：25 (漁業者数：75 名) 小型底びき網漁業 経営体数：15 (漁業者数：30 名)
-----------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当地区海域は紀伊水道に面しており、吉野川・那賀川の両一級河川に挟まれ恵まれた漁場を有し、漁船漁業や藻類(ワカメ)養殖業が盛んに行われている。その中でも特に機船船びき網漁業が盛んで当地区水揚高の中心となっている。

機船船びき網漁業は徳島県下一の漁業者数と漁獲高を誇り、水揚げする「和田島ちりめん」は徳島県産ブランドとして確立されつつある。しかしながら、近年における漁獲高の減少や、所属する組合員の高齢化や漁業後継者不足、魚価の低迷など解決すべき問題や課題は多い。

また、シラス加工においては自加工を営む漁業者が多いものの、従業員の高齢化及び人員不足、加工施設の老朽化に伴う維持管理経費や設備投資の増大が経営を圧迫し廃業するケースが増えている。

(2) その他の関連する現状等

地域の水産業の特徴としては、漁獲物を「ちりめん」に加工する一次加工までが大部分であり、より付加価値の高い二次加工品はほとんど生産されていない。このため、限られた地域資源を有効活用しつつ、生産額を増加させるためには「和田島ちりめん」ブランドを確立させるとともに、より付加価値の高い商品開発を行い、販売まで手がける6次産業化を推進することが必要である。現在、漁協直販所を運営し、顧客ニーズ等の把握に努めているところであり、特別感を演出するため、その日に釜揚げした「やわらかちりめん」を既に販売し具体的な商品づくりのノウハウの蓄積を図りながら漁業収入の増加に取り組んでいるところである。

さらに、加工場の老朽化や担い手不足も顕著であることから、シラスにおける一次加工については協業化についても検討を図っている。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

【漁業収入向上のための取り組み】

(食育の取組)

和田島漁協は小松島市食育推進実務者会議の会員として、小松島市内の小学校を対象とした地元水産物の食育活動（学校給食への食材提供）等の取組に参加し、地産地消の推進及び地元水産物の消費拡大に図った。第2期においても、行政・教育機関等と連携を図りながら取組を継続していく。

(PR活動の取組)

和田島漁協主催の水産物PRイベント「和田島ちりめん市」を毎年10月頃に開催するとともに、漁協直営の直売所や徳島県のアンテナショップなどを通じて、ちりめん・干しエビなどの水産加工物の販売・PR活動を積極的に行い、地元水産物の認知度向上を図り、生産額や販売額の増加につなげる取組を行なった。また、東京での物販イベントへ年3回程度出展し、PR活動を行った。

加えて「和田島ちりめん」が市の『ふるさと納税』の返礼商品に認定される等、認知度向上に資する取組も行った。

しかし関東圏での認知度が未だに低いことから、他産地との差別化を図りながら、第2期においても積極的な取組を継続していく。

(鮮度保持・品質向上の取組)

「ちりめん」の原料である鰯稚魚（シラス）や「干しエビ」の原料である小エビは、鮮度の劣化が激しいことから、機船船びき網漁業と小型底びき網漁業の曳網時間を短縮し、漁獲物が傷まないうちに水揚げするとともに、平成 16 年度に整備した滅菌流動海水氷施設を活用することで、水揚げ直後の漁獲物の鮮度を保ち、漁獲物の鮮度保持・品質向上を図り、魚価向上に繋げた。

特に曳網時間短縮に関連して、これまで不定であった機船船びき網漁業の操業終了時間について、部会において平成 30 年から一斉、午後 2 時までと取り決めた。これにより、燃油コストの削減も期待されている。

また、滅菌流動海水氷により、特にエビ類の色落ちが抑えられていることから、第 2 期においても、利活用を促進し取組を継続していく。

(未利用資源の有効利用の取組)

機船船びき網漁業や小型底びき網漁業で混獲される小型のタチウオ等の未利用資源を干物加工し、和田島漁協直売所で販売することで、可食でありながら廃棄される未利用資源の有効利用を図った。未利用資源についてはペットフード等への利用についても検討を行っているが、他所での販路開拓や費用便益の問題等により、商品化には至っていないことから、第 2 期においては企業や研究機関等と連携しながら取組を継続していく。

(資源の維持・回復の取組)

漁協と漁業者が連携し、種苗放流（クルマエビ等）による資源の底上げ等を積極的に行い漁業収入向上に努めた。資源の維持や回復の効果は、長期的な視野を持つ必要があることから、第 2 期においても取組を継続していく。

【漁業経費削減の取り組み】

(省エネ機器・設備導入の取組)

省エネ機器・設備導入により整備コスト削減及び省燃油に繋げるよう努めた。

(減速航行の取組)

減速航行（機関回転数を 200 回転下げる）を実施し燃油コスト削減に努めた。

(船底清掃の取組)

船底清掃により船底と海面の抵抗を少なくし、燃費向上を図ることで経費削減に努めた。

第 2 期についても、船底清掃と減速航行の取組を推進するとともに、省エネ機器や設備導入への支援を行う等、漁業経費削減の取組を継続していく。

第 1 期では上記の取組により平成 30 年度の漁業所得は目標値である「7,134 千円」を上回ることができた。しかしながら、市場状況や海洋環境の変化によって漁獲量の変動は免れないことから、第 2 期においても浜の活力再生プランに沿いながら着実な取組を進めていく。

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

【漁業収入向上のための取り組み】

(食育の取組)

和田島漁協は小松島市食育推進実務者会議の会員として、引き続き小松島市内の小学校を対象とした地元水産物の食育活動（学校給食への食材提供）等の取組に参加する他、イベント等を通じて次世代に向けた魚食文化の継承に向け取り組んでいく。

(PR 活動の取組)

和田島漁協主催の水産物 PR イベント「和田島ちりめん市」を毎年開催するとともに、漁協直営の直売所における「和田島ちりめん」の販売を強化しブランド認知の向上を目指す他、市等と連携しながら首都圏での販促イベントや PR イベントに積極的に参加することで、更なる販路拡大を図る。

(鮮度保持・品質向上の取組)

曳網時間を短縮し、こまめに網揚げを行うことで魚体の損傷を防ぎ品質を向上させる。また、小型底びき網漁業では滅菌流動海水氷施設を活用することで、水揚げ直後の漁獲物の鮮度を保ち、漁獲物の鮮度保持・品質向上を図り、魚価向上に繋げる。

加えて和田島漁協自身が荷受けとなる入札制度の構築による生シラス出荷体制や、それに伴う荷さばき場や鮮度保持施設等の整備についても経営体の意向を踏まえながら鮮度保持・品質向上の取組を検討する。

(未利用資源の有効利用の取組)

機船船びき網漁業や小型底びき網漁業で混獲される小型のタチウオ等の未利用資源を干物加工し、和田島漁協直売所で販売する。また、ペットフード等への利用の可能性についても検討を行っていく。

(資源の維持・回復の取組)

漁業者が主体となって和田島漁協と協力し、クルマエビの種苗放流に取り組み、資源の底上げ等を積極的に行うほか、曳航時間を減少させることで乱獲を防ぎ資源管理に努める。

【漁業経費削減の取組み】

(省エネ機器・設備導入の取組)

省エネ機器・設備導入により整備コスト削減及び省燃油に繋げるよう努める。

(減速航行の取組)

減速航行（機関回転数を 200 回転下げる）を実施し燃油コスト削減に努める。

(船底清掃の取組)

船底清掃により船底と海面の抵抗を少なくし、燃費向上を図ることで経費削減に努める。

(操業時間低減の取組)

操業時間を低減させることにより、燃油コスト削減に努める。

これら取組に関しては、国、県、市の事業の活用を図ることとし、漁業収入向上と漁業コスト削減とを組み合わせ、総合的に漁業者の所得向上を図る。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

【機船船びき網漁業】

・漁業者の自主的取組として一斉休漁の取組（日曜日定休、平日 1 日または 2 日の一斉休漁）や、操業時間の短縮（曳網終了時間を 14 時に設定）、シラス袋網の目合の規制（最小目合 220 経に制限）等を行っている。

・公的管理措置として、漁業許可に際し「総トン数 20t 未満」（瀬戸内海機船船びき網漁業許可方針（徳島県の方針））、「馬力数 143kw 以下」（昭和 38 年農林省告示 908 号）、「夜間操業の禁止」（瀬戸内海機船船びき網漁業許可方針（徳島県の方針））の制限を付している。

【小型船びき網漁業】

・漁業関係法令上、周年操業（1 月 1 日から 1 2 月 3 1 日）が認められているが、自主的に 1 2 0 日以上は休漁及び操業時間の短縮を実施し資源管理に努めている。

(4) 具体的な取組内容 (毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目 (令和2年度) 「所得約2%以上向上」

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組により漁業収入を基準年より1%向上させる。</p> <p>(食育の取組)</p> <p>小松島市食育推進実務者会議の会員として、教育機関や行政機関と連携しながら小松島市内の小学校を対象とした地元水産物の食育活動(学校給食への食材提供)等の取組に参加することで、地産地消の推進及び地元水産物の消費拡大に努める。</p> <p>(PR活動の取組)</p> <p>年一回、和田島漁協の女性部が中心となり「ちりめん市」と題した水産物PRイベントを開催し、ブランド魚である「和田島ちりめん」の更なるイメージ向上と普及を推進するとともに、小型底びき網漁業で漁獲されたハモやタチウオ等の鮮魚販売を行い地元水産物の消費拡大を図る。</p> <p>和田島漁協は漁業者と連携し、当該組合が運営する直売所「ちりめんの店」、東京や大阪にある徳島県のアンテナショップ及び小松島市の友好都市である北海道本別町道の駅などを通して、当地区で水揚げされる、ちりめん・干しエビを主とした水産加工品の販売・PR活動を行う。</p> <p>また、他県で開催される徳島県参加の各イベント・地元小松島市主催の各イベントへ積極的に参加・出品し、地元水産物の認知度向上に努める他、主に大都市圏を中心としたプロモーション活動に向けた取組について戦略的な検討を行う。</p>
--------------	---

	<p>(鮮度保持・品質向上の取組)</p> <p>機船船曳網漁業において、特に漁獲が少ない日は長時間曳網するため魚体の弱いシラスは水揚げ時に品質劣化が進んでおり、加工すると製品の歩留まりが低下したり、魚体が折れ曲がるなど品質が悪化したりすることから、取引価格に悪影響を及ぼしている。これらを改善するために曳網時間を短縮し、こまめに網揚を行う。さらに、網揚げ→陸揚げ→運搬→加工までの鮮度保持の為に、淡水プレート氷に比べ鮮度保持能力が優れている「滅菌流動海水氷」の利用促進に努め、「和田島ちりめん」の品質向上を図る。</p> <p>また、小型機船底びき網漁業において、1操業あたりの曳網時間の短縮や1日あたりの操業時間を短縮するとともに、品質劣化により黒変しやすい小エビ等で「滅菌流動海水氷」の利用促進に努めることにより、鮮度の高い漁獲物を水揚げし、単価向上を図る。</p> <p>加えて、入札制度導入による生シラス出荷体制の整備や鮮度保持施設等の整備等、鮮度保持や品質向上に資する取組について検討を行う。</p> <p>(未利用資源の有効利用の取組)</p> <p>機船船びき網漁業や小型底びき網漁業で混獲される小型のタチウオ等の未利用資源を干物加工し、和田島漁協直売所で販売する。</p> <p>(資源の維持・回復の取組)</p> <p>漁業者が主体となって和田島漁協と協力し、クルマエビの種苗放流に取り組み、資源の底上げ等を積極的に行うほか、曳航時間を減少させることで乱獲を防ぎ資源管理に努める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により漁業コストを基準年より資材費等の高騰も踏まええ約0.5%増加に抑制させる。ただし、燃油コストに関しては毎年基準年比2%ずつ削減させ、目標年度には基準年比10%以上の削減を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当委員会構成員の船舶燃費向上を図るため船底清掃を行う。 ・減速航行の積極的な実施。 ・船曳網漁業の曳網船の機関を省エネ機関へ機関換装し燃油消費量削減を実現する。 ・操業時間を低減させることにより、燃油コスト削減を実現するため、部会等で検討する。

活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業（国） 浜の活力プラン推進事業（国） 水産業強化支援事業（国） 水産多面的機能発揮対策事業（国） 水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国） 徳島県単独水産振興関係事業（県） 徳島県農山漁村未来創造事業（県） 小松島市単独漁業後継者育成対策事業（市）
-----------	--

2年目（令和3年度）「所得約4%以上向上」

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組により漁業収入を基準年より1%向上させる。</p> <p>（食育の取組）</p> <p>小松島市食育推進実務者会議の会員として、教育機関や行政機関と連携しながら小松島市内の小学校を対象とした地元水産物の食育活動（学校給食への食材提供）等の取組に参加することで、地産地消の推進及び地元水産物の消費拡大に努める。</p> <p>（PR活動の取組）</p> <p>年一回、和田島漁協の女性部が中心となり「ちりめん市」と題した水産物PRイベントを開催し、ブランド魚である「和田島ちりめん」の更なるイメージ向上と普及を推進するとともに、小型底びき網漁業で漁獲されたハモやタチウオ等の鮮魚販売をおこない地元水産物の消費拡大を図る。</p> <p>和田島漁協は漁業者と連携し、当該組合が運営する直売所「ちりめんの店」、東京や大阪にある徳島県のアンテナショップ及び小松島市の友好都市である北海道本別町道の駅などを通して、当地区で水揚げされる、ちりめん・干しエビを主とした水産加工品の販売・PR活動を行う。</p> <p>また、他県で開催される徳島県参加の各イベント・地元小松島市主催の各イベントへ積極的に参加・出品し、地元水産物の認知度向上に努める他、主に首都圏を中心としたプロモーション活動を仕掛けることにより販路開拓と小松島市・和田島ブランドの知名度向上を図る。</p> <p>大都市圏を中心としたプロモーション活動に向けた取組について、試験的に新規販路開拓に向けた物販への参加等を行う。</p>
--------------	--

	<p>(鮮度保持・品質向上の取組)</p> <p>機船船曳網漁業において、特に漁獲が少ない日は長時間曳網するため魚体の弱いシラスは水揚げ時に品質劣化が進んでおり、加工すると製品の歩留まりが低下したり、魚体が折れ曲がるなど品質が悪化したりすることから、取引価格に悪影響を及ぼしている。これらを改善するために曳網時間を短縮し、こまめに網揚を行う。さらに、網揚げ→陸揚げ→運搬→加工までの鮮度保持の為に、淡水プレート氷に比べ鮮度保持能力が優れている「滅菌流動海水氷」の利用促進に努め、「和田島ちりめん」の品質向上を図る。</p> <p>また、小型機船底びき網漁業において、1操業あたりの曳網時間の短縮や1日あたりの操業時間を短縮するとともに、品質劣化により黒変しやすい小エビ等で「滅菌流動海水氷」の利用促進に努めることにより、鮮度の高い漁獲物を水揚げし、単価向上を図る。</p> <p>加えて、入札制度導入による生シラス出荷体制の整備や鮮度保持施設等の整備等、鮮度保持や品質向上に資する取組について検討を行う。</p> <p>(未利用資源の有効利用の取組)</p> <p>機船船びき網漁業や小型底びき網漁業で混獲される小型のタチウオ等の未利用資源を干物加工し、和田島漁協直売所で販売する。</p> <p>(資源の維持・回復の取組)</p> <p>漁業者が主体となって和田島漁協と協力し、クルマエビの種苗放流に取り組み、資源の底上げ等を積極的に行うほか、曳航時間を減少させることで乱獲を防ぎ資源管理に努める</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により漁業コストを基準年より資材費等の高騰も踏まええ約0.5%増加に抑制させる。ただし、燃油コストに関しては毎年基準年比2%ずつ削減させ、目標年度には基準年比10%以上の削減を目指す。</p> <p>当委員会構成員の船舶燃費向上を図るため船底清掃を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減速航行の積極的な実施。 ・船曳網漁業の曳網船の機関を省エネ機関へ機関換装し燃油消費量削減を実現する。 ・操業時間を低減させることにより、燃油コスト削減を実現するため、部会等で検討し、必要があれば他の地区の取組視察等の調査を実施する。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティーネット構築事業（国）</p> <p>浜の活力プラン推進事業（国）</p> <p>水産業強化支援事業（国）</p>

	<p>水産多面的機能発揮対策事業（国）</p> <p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）</p> <p>徳島県単独水産振興関係事業（県）</p> <p>徳島県農山漁村未来創造事業（県）</p> <p>小松島市単独漁業後継者育成対策事業（市）</p>
--	--

3年目（令和4年度）「所得約6%以上向上」

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組により漁業収入を基準年より1%向上させる。</p> <p>（食育の取組）</p> <p>小松島市食育推進実務者会議の会員として、教育機関や行政機関と連携しながら小松島市内の小学校を対象とした地元水産物の食育活動（学校給食への食材提供）等の取組に参加することで、地産地消の推進及び地元水産物の消費拡大に努める。</p> <p>（PR活動の取組）</p> <p>年一回、和田島漁協の女性部が中心となり「ちりめん市」と題した水産物PRイベントを開催し、ブランド魚である「和田島ちりめん」の更なるイメージ向上と普及を推進するとともに、小型底びき網漁業で漁獲されたハマやタチウオ等の鮮魚販売をおこない地元水産物の消費拡大を図る。</p> <p>和田島漁協は漁業者と連携し、当該組合が運営する直売所「ちりめんの店」、東京や大阪にある徳島県のアンテナショップ及び小松島市の友好都市である北海道本別町道の駅などを通して、当地区で水揚げされる、ちりめん・干しエビを主とした水産加工品の販売・PR活動を行う。</p> <p>また、他県で開催される徳島県参加の各イベント・地元小松島市主催の各イベントへ積極的に参加・出品し、地元水産物の認知度向上に努める他、主に首都圏を中心としたプロモーション活動を仕掛けることにより販路開拓と小松島市・和田島ブランドの知名度向上を図る。</p> <p>大都市圏を中心としたプロモーション活動に向けた取組について、前年度の結果に基づきながら取組を行う。</p>
---------------------	--

	<p>(鮮度保持・品質向上の取組)</p> <p>機船船曳網漁業において、特に漁獲が少ない日は長時間曳網するため魚体の弱いシラスは水揚げ時に品質劣化が進んでおり、加工すると製品の歩留まりが低下したり、魚体が折れ曲がるなど品質が悪化したりすることから、取引価格に悪影響を及ぼしている。これらを改善するために曳網時間を短縮し、こまめに網揚を行う。さらに、網揚げ→陸揚げ→運搬→加工までの鮮度保持の為に、淡水プレート氷に比べ鮮度保持能力が優れている「滅菌流動海水氷」の利用促進に努め、「和田島ちりめん」の品質向上を図る。</p> <p>また、小型機船底びき網漁業において、1操業あたりの曳網時間の短縮や1日あたりの操業時間を短縮するとともに、品質劣化により黒変しやすい小エビ等で「滅菌流動海水氷」の利用促進に努めることにより、鮮度の高い漁獲物を水揚げし、単価向上を図る。</p> <p>加えて、入札制度導入による生シラス出荷体制整備や鮮度保持施設等の整備等、魚価向上に資する取組について検討を行う。</p> <p>(未利用資源の有効利用の取組)</p> <p>機船船びき網漁業や小型底びき網漁業で混獲される小型のタチウオ等の未利用資源を干物加工し、和田島漁協直売所で販売する。</p> <p>(資源の維持・回復の取組)</p> <p>漁業者が主体となって和田島漁協と協力し、クルマエビの種苗放流に取り組み、資源の底上げ等を積極的に行うほか、曳航時間を減少させることで乱獲を防ぎ資源管理に努める</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により漁業コストを基準年より資材費等の高騰も踏まええ約0.5%増加に抑制させる。ただし、燃油コストに関しては毎年基準年比2%ずつ削減させ、目標年度には基準年比10%以上の削減を目指す。</p> <p>当委員会構成員の船舶燃費向上を図るため船底清掃を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減速航行の積極的な実施。 ・船曳網漁業の曳網船の機関を省エネ機関へ機関換装し燃油消費量削減を実現する。 ・操業時間を低減させることにより、燃油コスト削減を実現するため、部会等で検討し、視察等の調査内容を勘案しながら地区に見合った方法を検討する。

活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業（国） 浜の活力プラン推進事業（国） 水産業強化支援事業（国） 水産多面的機能発揮対策事業（国） 水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国） 徳島県単独水産振興関係事業（県） 徳島県農山漁村未来創造事業（県） 小松島市単独漁業後継者育成対策事業（市）
-----------	--

4年目（令和5年度）「所得約8%以上向上」

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組により漁業収入を基準年より1%向上させる。</p> <p>（食育の取組）</p> <p>小松島市食育推進実務者会議の会員として、教育機関や行政機関と連携しながら小松島市内の小学校を対象とした地元水産物の食育活動（学校給食への食材提供）等の取組に参加することで、地産地消の推進及び地元水産物の消費拡大に努める。</p> <p>（PR活動の取組）</p> <p>年一回、和田島漁協の女性部が中心となり「ちりめん市」と題した水産物PRイベントを開催し、ブランド魚である「和田島ちりめん」の更なるイメージ向上と普及を推進するとともに、小型底びき網漁業で漁獲されたハモやタチウオ等の鮮魚販売をおこない地元水産物の消費拡大を図る。</p> <p>和田島漁協は漁業者と連携し、当該組合が運営する直売所「ちりめんの店」、東京や大阪にある徳島県のアンテナショップ及び小松島市の友好都市である北海道本別町道の駅などを通して、当地区で水揚げされる、ちりめん・干しエビを主とした水産加工品の販売・PR活動を行う。</p> <p>また、他県で開催される徳島県参加の各イベント・地元小松島市主催の各イベントへ積極的に参加・出品し、地元水産物の認知度向上に努める他、主に首都圏を中心としたプロモーション活動を仕掛けることにより販路開拓と小松島市・和田島ブランドの知名度向上を図る。</p> <p>さらに、大都市圏を中心としたプロモーション活動に向けた取組について、前年度の結果に基づきながら取組を行うとともに、再度の効果検証を行う。</p>
--------------	---

	<p>(鮮度保持・品質向上の取組)</p> <p>機船船曳網漁業において、特に漁獲が少ない日は長時間曳網するため魚体の弱いシラスは水揚げ時に品質劣化が進んでおり、加工すると製品の歩留まりが低下したり、魚体が折れ曲がるなど品質が悪化したりすることから、取引価格に悪影響を及ぼしている。これらを改善するために曳網時間を短縮し、こまめに網揚を行う。さらに、網揚げ→陸揚げ→運搬→加工までの鮮度保持の為に、淡水プレート氷に比べ鮮度保持能力が優れている「滅菌流動海水氷」の利用促進に努め、「和田島ちりめん」の品質向上を図る。</p> <p>また、小型機船底びき網漁業において、1操業あたりの曳網時間の短縮や1日あたりの操業時間を短縮するとともに、品質劣化により黒変しやすい小エビ等で「滅菌流動海水氷」の利用促進に努めることにより、鮮度の高い漁獲物を水揚げし、単価向上を図る。</p> <p>加えて、入札制度導入による生シラス出荷体制の整備や鮮度保持施設等の整備等、鮮度保持や品質向上に資する取組について検討を行う。</p> <p>(未利用資源の有効利用の取組)</p> <p>機船船びき網漁業や小型底びき網漁業で混獲される小型のタチウオ等の未利用資源を干物加工し、和田島漁協直売所で販売する。</p> <p>(資源の維持・回復の取組)</p> <p>漁業者が主体となって和田島漁協と協力し、クルマエビの種苗放流に取り組み、資源の底上げ等を積極的に行うほか、曳航時間を減少させることで乱獲を防ぎ資源管理に努める</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により漁業コストを基準年より資材費等の高騰も踏まええ約0.5%増加に抑制させる。ただし、燃油コストに関しては毎年基準年比 2%ずつ削減させ、目標年度には基準年比 10%以上の削減を目指す。</p> <p>当委員会構成員の船舶燃費向上を図るため船底清掃を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減速航行の積極的な実施。 ・船曳網漁業の曳網船の機関を省エネ機関へ機関換装し燃油消費量削減を実現する。 ・操業時間を低減させることにより、燃油コスト削減を実現するため、これまでの検討の結果に基づき、試験的に実施する。

活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業（国） 浜の活力プラン推進事業（国） 水産業強化支援事業（国） 水産多面的機能発揮対策事業（国） 水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国） 徳島県単独水産振興関係事業（県） 徳島県農山漁村未来創造事業（県） 小松島市単独漁業後継者育成対策事業（市）
-----------	--

5年目（令和6年度）「所得10%以上向上」

漁業収入向上のための取組	<p>（食育の取組）</p> <p>小松島市食育推進実務者会議の会員として、教育機関や行政機関と連携しながら小松島市内の小学校を対象とした地元水産物の食育活動（学校給食への食材提供）等の取組に参加することで、地産地消の推進及び地元水産物の消費拡大に努める。</p> <p>（PR活動の取組）</p> <p>年一回、和田島漁協の女性部が中心となり「ちりめん市」と題した水産物PRイベントを開催し、ブランド魚である「和田島ちりめん」の更なるイメージ向上と普及を推進するとともに、小型底びき網漁業で漁獲されたハマやタチウオ等の鮮魚販売をおこない地元水産物の消費拡大を図る。</p> <p>和田島漁協は漁業者と連携し、当該組合が運営する直売所「ちりめんの店」、東京や大阪にある徳島県のアンテナショップ及び小松島市の友好都市である北海道本別町道の駅などを通して、当地区で水揚げされる、ちりめん・干しエビを主とした水産加工品の販売・PR活動を行う。</p> <p>また、他県で開催される徳島県参加の各イベント・地元小松島市主催の各イベントへ積極的に参加・出品し、地元水産物の認知度向上に努める他、主に首都圏を中心としたプロモーション活動を仕掛けることにより販路開拓と小松島市・和田島ブランドの知名度向上を図る。</p> <p>さらに、大都市圏を中心としたプロモーション活動に向けた取組について、それまでの取組の検証結果に基づき、次期の活動に向けた計画を立案する。</p>
--------------	---

	<p>(鮮度保持・品質向上の取組)</p> <p>機船船曳網漁業において、特に漁獲が少ない日は長時間曳網するため魚体の弱いシラスは水揚げ時に品質劣化が進んでおり、加工すると製品の歩留まりが低下したり、魚体が折れ曲がるなど品質が悪化したりすることから、取引価格に悪影響を及ぼしている。これらを改善するために曳網時間を短縮し、こまめに網揚を行う。さらに、網揚げ→陸揚げ→運搬→加工までの鮮度保持の為に、淡水プレート氷に比べ鮮度保持能力が優れている「滅菌流動海水氷」の利用促進に努め、「和田島ちりめん」の品質向上を図る。</p> <p>また、小型機船底びき網漁業において、1操業あたりの曳網時間の短縮や1日あたりの操業時間を短縮するとともに、品質劣化により黒変しやすい小エビ等で「滅菌流動海水氷」の利用促進に努めることにより、鮮度の高い漁獲物を水揚げし、単価向上を図る。</p> <p>加えて、入札制度導入による生シラス出荷体制の整備や鮮度保持施設等の整備等、鮮度保持や品質向上に資する取組について検討を行う。</p> <p>(未利用資源の有効利用の取組)</p> <p>機船船びき網漁業や小型底びき網漁業で混獲される小型のタチウオ等の未利用資源を干物加工し、和田島漁協直売所で販売する。</p> <p>(資源の維持・回復の取組)</p> <p>漁業者が主体となって和田島漁協と協力し、クルマエビの種苗放流に取り組み、資源の底上げ等を積極的に行うほか、曳航時間を減少させることで乱獲を防ぎ資源管理に努める</p> <p>また、上記の取組に関して検証を行い、改善すべき点については次期のプランへ反映させることとする。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により漁業コストを基準年より資材費等の高騰も踏まええ約0.6%増加に抑制させる。ただし、燃油コストに関しては毎年基準年比2%ずつ削減させ、目標年度には基準年比10%以上の削減を目指す。</p> <p>当委員会構成員の船舶燃費向上を図るため船底清掃を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減速航行の積極的な実施。 ・船曳網漁業の曳網船の機関を省エネ機関へ機関換装し燃油消費量削減を実現する。 ・操業時間を低減させることにより、燃油コスト削減を実現するため、これまでの調査等に基づき、地区に最適な操業時間について検討する。 <p>また、上記の取組に関して検証を行い、改善すべき点については次期のプランへ反映させることとする。</p>

活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業（国） 浜の活力プラン推進事業（国） 水産業強化支援事業（国） 水産多面的機能発揮対策事業（国） 水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国） 徳島県単独水産振興関係事業（県） 徳島県農山漁村未来創造事業（県） 小松島市単独漁業後継者育成対策事業（市）
-----------	--

(5) 関係機関との連携

国等の支援事業を積極的に活用し、徳島県漁業協同組合連合会、徳島県漁業共済組合、徳島県や小松島市及び研究機関等と連携を図る。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

「和田島ちりめん市」参加人数の 10%増	基準年	
	目標年	

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティ ーネット構築事業 (国)	燃油価格高騰時に補填を受け、漁業経営の安定化を図る。
水産業強化支援事業 (国)	浜プランに位置づけられた施設整備の支援。
浜の活力プラン推進 事業 (国)	浜プランの見直しにかかる支援。
水産多面的機能発揮 対策事業 (国)	清掃活動や海洋環境学習等を通し、海の環境保全に努めることで地域資源の価値を向上させる。
水産業成長産業化沿 岸地域創出事業 (国)	収益性の向上と適切な資源管理の両立を図り、漁業者自らが策定した計画に基づき、目標達成に向けて必要な漁船、漁具等についてリース方式による円滑な導入を支援する。
徳島県単独水産振興 関係事業 (県)	水産業の振興促進、設備の近代化等、水産業関係事業の振興の支援。
徳島県農山漁村未来 創造事業 (県)	地域農林水産業の持続的発展と農山漁村の活力創出に関する取組を支援する。
小松島市単独漁業後 継者育成対策事業 (市)	漁業の次世代を担うリーダー及び後継者の人材を育成する取組を支援する。